

基調報告

認定 NPO 法人ファミリーハウスは 1991 年創立以来 26 年、NPO 法人格取得以来 18 年、認定 NPO 法人取得から 7 年が経過いたしました。この間活動を支えてくださった会員の皆様をはじめ、多くの支援者のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。

ファミリーハウスは 2016 年度、12 施設 58 室を運営し、882 家族、延べ 9,866 人の方々にご利用いただきました。ハウスを支えるボランティア、スタッフの皆様のご努力に感謝申し上げます。

2016 年度は、ファミリーハウスの活動を社会と共有する年となりました。

第一に、2016 年 8 月、4 回目のファミリーハウス・フォーラム 2016『英国小児ホスピスの現場から～英国運営者と利用経験者、2 つの立場から～』を開催しました。医療・福祉専門職や学生を中心に 204 名が参加。ブリストルロイヤル子ども病院小児緩和ケアリエゾン看護師のフランシス・エドワーズ氏、およびホスピスの利用者でもあり、元シューティングスターチェイス理事のダン淳子氏から講演をいただきました。ファミリーハウスが設立当初から大切にしてきた「患者家族を見守り、家族の自立を支える」ということの重要性が明確になり、医療関係者と共有できたことは、今後の医療関係者とハウスの連携強化に向けて貴重な一歩となりました。(公益財団法人 JKA 平成 28 年度オートレース補助事業)

第二に、企業ボランティアの活動の増加です。定期的にハウスを支えていただくボランティアは、登録が 357 名(昨年 333 名)。手仕事、事務仕事などを除くハウスキーピングなどの定期活動は合計で 570 回、延べ 2,526 名に支えられました。企業社会貢献で行われる 1 日ボランティアは、合計 164 回、5,086 人が参加しました(昨年 106 回 1,346 名)。このご協力のおかげで、ハウスの安全衛生が守られ、ハウスがより豊かになるような活動となりました。

第三に、病棟、専門家、関係団体との連携です。重症な患者さんを受け入れるために、病院とも連携の必要な中で、看護師などの専門家の協力により、今まで受け入れが難しかった患者家族にハウスをご利用いただき、振り返りのミーティングも持つことができました。

また、2017 年 3 月末をもって、2001 年開設以来 16 年間運営してきたアフラックペアレンツハウス 亀戸・浅草橋の運営を終了しました。この活動を始めて 26 年が経過し、医療の変化も著しく、ハウスに求められる役割も拡大してきました。私たちは病気の子どもと家族にとっての「理想の家」を造りたいと考えこれまで努力をしてまいりました。アフラックペアレンツハウスの運営終了は、次の段階に進むための発展的解消と考え、利用者や関係者の皆様にもご理解をいただき、スムーズな方向転換をすることができました。2017 年度は、病院から徒歩圏内の勝どきに増室を予定しております。

この 1 年間活動を支えてくださいました皆様方に御礼申し上げますとともに、今後ともこの活動にご支援ご協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

理事長 江口 八千代

2016 年度事業報告

1. ハウス運営事業

(1) ハウス運営報告

2017 年 3 月末の施設数は、12 施設 58 部屋。利用実績は、882 家族(9,866 人)延べ 6,855 日。
本法人活動開始以来の利用実績累計は、17,583 家族、延べ 156,390 日。

[1]『アフラックペアレンツハウス(亀戸・浅草橋)』受託運営終了

2017 年 3 月 31 日をもって、ファミリーハウスはアフラックペアレンツハウス 亀戸・浅草橋の運営を終了した。1999 年アフラックよりハウス建設のご提案をいただき、公益財団法人がんの子どもを守る会とともに、日本で最初の大型ハウスの 3 者共同運営を担ってきた。ハウスに対する医療ニーズも変わり、今後は病院近くに、医療的ケアが必要な患児を含め家族全員で過ごすことができる、新たなニーズに応えられるハウスづくりを目指す。2017 年 3 月 18 日(土)には、アフラックペ

アレンツハウス浅草橋セミナールームにて感謝の会を開催。これまで協力くださったボランティア、スタッフ 26 名が参加し、最後の掃除後に歓談の時間を設け、これまでの活動を振り返る時間となった。

(2)安全衛生について

[1]寝具リネンのクリーニング

各ハウスの寝具リネン(布団カバー・シーツ・枕カバー)を毎月 2 回、業者とリネンボランティアの協力を得て交換。常時、清潔なリネンを提供することが出来た。

[2]リース寝具の提供

本年度も引き続き、一般財団法人日本メイスン財団の助成により、良質なリース寝具を提供することが出来た。寝具一式(枕、敷布団、ベッドパット、厚・薄掛布団)は年 4 回洗浄されたものと定期的に交換することが出来た。交換時には定期・企業ボランティアの協力を得て梱包や点検を行い、利用者への良好な衛生環境を維持することが出来た。

[3]洗濯機槽とエアコンフィルター清掃

毎月 1 回、各ハウス洗濯機槽、エアコンフィルターを清掃し、治療中の患児も安心して利用できる衛生的な環境維持に努めた。ハウスボランティアの地道な活動に支えられて、衛生を保つことが出来た。

[4]ハウスの大掃除

日常の清掃は、利用者と定期のハウスボランティア、スタッフで行い、衛生に努めているが、季節ごとに企業ボランティアを募って大掃除を行い、ハウス内の安全衛生の一層の向上に努めた。2016 年度は、延べ 34 回の大掃除を行い、合計 346 名にご協力を頂いた。

大掃除の前には DVD や資料などで活動を紹介し、活動の趣旨、清掃の必要性を理解いただいた上で活動を行っている。こうしたスポットの活動後に、企業の立場を離れて個人としてイベント時のボランティアへの参加やボランティア登録をして定期活動に参加くださる方もおり、大掃除の活動がハウス活動の支援者を増やすきっかけになっている。

[5]専門家によるハウスクリーニング

昨年に引き続き、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成を得て、今年も専門家によるハウスクリーニングを 9 施設で実施した。エアコン、洗濯機、浴室など専門技術の必要な箇所およびベランダなど日常の清掃では出来ない箇所を中心に清掃を行った。

(3)ハウス設備の充実

ファミリーハウスは、安いホテルではなく、利用者にとって「病院近くのもうひとつのわが家」を運営することをミッションとしている。特に近年は、重篤な子ども達の利用も多く、ハウスが家族とのかけがえのない時間を過ごす場所となっている。そのため、ハウスの安全や衛生をはじめ、各ご家族の状況とそれぞれのニーズに添った支援を募り、設備充実に努めた。

[1]本・DVD・おもちゃ

個人や企業から、絵本・DVD ソフト・おもちゃなど多くの寄贈があった。セガサミーホールディングス株式会社からは、子どもたちに人気のキャラクターグッズやベッドの上でも楽しむことができる安全なおもちゃのご寄付をいただき、患児をはじめ、きょうだい児、ご家族に大変喜ばれた。届いた本やおもちゃは、ボランティアで定期的に除菌を行い清潔な状態で利用していただいた。

[2]食品・生活用品など

味の素株式会社、花王株式会社などの企業及び、通信の呼びかけに応じて個人から、食品や日用品の寄付が多数あった。また、見学やボランティア活動でハウスを訪れた個人・企業社員から利用者のニーズに添った物品寄付が多く届いた。それらの物品寄付は、ボランティアの協力を得て各ハウスに配備し、闘病中の家族の経済的負担軽減につながった。

[3]利用者への季節の贈り物

企業、個人のボランティアの協力を得て、母の日やクリスマスなどに季節の品を贈ることができた。また、クリスマス時期は、子ども達が大好きな本やおもちゃ、ひざかけや靴下、クリスマスのお菓子などが個人・企業・団体などからたくさん届き、ボランティアの協力を得て、ラッピングを行った。患児の年齢や性別、好みによりプレゼントを仕分け、好きなものを自由に選べるよう準備し、大変喜ばれた。

[4]PC・電化製品など

個人や協力企業より、ダイソンの掃除機、加湿器などをはじめとした家電製品等の備品の寄付及び助成があり、ハウスの

環境をより良くすることができた。

(4) ボランティア関係報告

[1] ボランティア説明会

事務局において、延べ 21 回のボランティア説明会を開催した。1 年間の新規ボランティア登録者数は 24 名。ボランティア説明会では、まずファミリーハウスの活動を理解いただくこと、ボランティア希望者と運営側のニーズがマッチングする事の二点に重点を置いている。2017 年 3 月現在、登録ボランティアは昨年より 24 名増加し、357 名となった。

[2] ハウスを支えるボランティア活動

運営する全てのハウスにおいて、ボランティアチームが定期的に活動することが出来た。ボランティアミーティング(263 回)やハウスキーピング(263 回、延べ 1329 名)、布団交換(36 回、延べ 228 名)やリネン交換(419 回)を定期的に行なったほか、アイデアやノウハウについて、ハウスを越えての共有も進んだ。定期のボランティアを核に、企業のワンデイボランティアとの協働も進み、活動を支える輪がさらに広がった。

[3] ボランティアルームでの活動

アフラックペアレンツハウス亀戸にあるボランティアルームにて 63 回、延べ 184 名の方により、次の活動が行われた

- 使い捨て布、雑巾、ごみパックづくり、エコバッグづくり
- ひまわりのおうちベッドカバー
- 東京マラソンランナー用メダル、エコバッグ作成
- 寄付のトレーナーのリメイク、トレーナーの袖部分でのクリスマスソックス作成
- 寄付品ラッピング(母の日プレゼント、クリスマスプレゼントなど)
- 発送作業
- その他(バザー品の作成、クリスマス飾り、ガーランド作成等)

[4] 手仕事ボランティア

定期的にボランティアルームにて、ベッドカバー作成、クリスマスソックス、クリスマスガーランド作成、東京マラソンランナー用メダル作成、エコバッグ作成を行った。

[5] 企業ボランティアとの協働

企業社員のボランティアとの協働が増え、2016 年度は、合計 164 回、5086 名が活動に参加した。うちハウスで活動した社員は、139 回、838 名。ハウスの大掃除 38 回、392 名。大掃除以外の手仕事や園芸などの活動に 36 回、321 名。そのほか PC メンテナンスや清掃など定期活動へ 65 回、125 名。ファミリーハウスが企業に出向くなどしてプログラムを提供した出張ボランティアは、25 回、延べ 4248 名が参加。たくさんの方の企業社員に活動を紹介し、協力いただく機会を得た。そのほか、社内で使い捨て布や紙ごみパックづくり、手作り品の作成などを継続して行ったださる企業やグループもあった。

<ファミリーハウスがプログラムを提供し実施した出張ボランティア活動>

- 2016 年 4 月 28 日(木) MSD 株式会社、母の日用エコバッグづくり、於:千代田区
- 2016 年 5 月 20 日(金) MSD 株式会社、リールキーづくり、於:埼玉県熊谷市
- 2016 年 6 月 5 日(日) 日本メトロニック(株)、クリスマスソックスづくり、於:品川区
- 2016 年 6 月 7 日(火) シティグループ、タオルラッピング、於:中央区
- 2016 年 6 月 10 日(金) シティグループ、タオルラッピング、於:千代田区
- 2016 年 6 月 14 日(火) MSD 株式会社、タオルラッピング、於:千葉県千葉市
- 2016 年 6 月 25 日(土) 日本メトロニック(株)、おそうじ棒づくり、於:渋谷区
- 2016 年 7 月 12 日(火) ジャトコ株式会社、エコバッグづくり、於:静岡県富士市
- 2016 年 7 月 21 日(木) MSD 株式会社、タオルラッピング、於:千代田区
- 2016 年 8 月 12 日(金) MSD 株式会社、使い捨て布・ボックスづくり、於:千代田区
- 2016 年 8 月 23 日(火) 第一生命保険株式会社、タオルラッピング、於:北区
- 2016 年 8 月 26 日(金) 中国農業銀行、使い捨て布・ごみパックづくり、於:千代田区
- 2016 年 9 月 2 日(金) シティグループ、タオルラッピング、於:千代田区
- 2016 年 9 月 5 日(月) ジャトコ株式会社、封筒シール貼り・ワッペンカット、於:横浜市

2016年10月19日(水) 株式会社ジェーシービー、ガーランドづくり、於:港区
2016年10月20日(木) ユーピーエス・ジャパン株式会社、使い捨て布づくり、於:港区
2016年11月29日(火) 株式会社MSD、リールキーづくり、於:千代田区
2016年12月6日(火) 東京経済大学、タオルラッピング、於:国分寺市
2016年12月14日(水) MSD株式会社、祝箸・ポチ袋づくり、於:千代田区
2016年12月22日(木) 株式会社セールスフォース・ドットコム、祝箸作り、於:千代田区
2017年2月2日(木) MSD株式会社、カードづくり、於:千代田区
2017年2月3日(金) 武田薬品工業株式会社、写真ホルダーづくり、於:中央区
2017年2月9日(木) ジャトコ株式会社、エコバッグづくり、於:横浜市
2017年3月6日(月) ジャトコ株式会社、エコバッグづくり、於:静岡県富士市
2017年3月31日(金) ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社ビジョンケアカンパニー、ガーランドづくり、於:千代田区

[6] イベントを支えるボランティア活動

準備から当日作業、チャリティバザー品などの小物作りにいたるまで、多くのボランティアに支えられ、以下のイベントを開催することが出来た。

2016年6月5日(日) ゴスペル東京・チャリティコンサート ブース出展

2016年8月7日(日) ファミリーハウス・フォーラム 2016

(於:イイノホール&カンファレンスセンター)

2016年9月16日(金) Jazz Night@魚籃寺(於:おさかなの家・港区)

2017年2月23日(木)~25日(土) 東京マラソン 2017EXPO ブース出展

2017年2月26日(日) 東京マラソン 2017

[7] IT 関係ボランティア

各ハウスに設置されているパソコンメンテナンスを月1回、ボランティアの協力により行った。PCボランティアのメンバーは、合計11名。また、活動報告やニュース等ホームページの情報もボランティアの協力により、月1回、定期的に更新することができた。

[8] 事務関係ボランティア

経理処理のチェック、労務管理、会員管理、利用率の算出、お礼状の発送、ファミリーハウス通信の編集・発送、アニュアルレポートの編集、啓発ポスターのデザイン・作成、各種デザイン関係の支援など、ボランティアの協力を得て行うことができた。

(5) 研修及びハウスマネージャミーティングの開催

[1] 安全衛生講習会

2016年10月18日、医療従事者をお招きし、院内の清掃や安全衛生、感染症対策についての講習会を開催した。医療現場での対応策や配慮していること、また、ハウスへのアドバイスも得る貴重な機会となった。(ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成により実施)

[2] アフラックペアレンツハウス・ハウスマネージャ合同ミーティング

毎月1回、ハウスマネージャ合同のミーティング及びリーダーミーティングを開催した。ケース事例についても共有し、利用者対応の連携に努めた。

[3] ハウスボランティアミーティング

各ハウスとも定期的にボランティアミーティングを開催し、多いハウスでは活動毎に振り返り、意見交換の時間を設けて話し合った。ハウスの現状や課題、そのほか活動の中でのアイデア等を共有し、今後のハウスのために行っていききたいことなどが話し合われた。

[4] プロジェクト進捗ミーティング

事務局において、毎週金曜日にプロジェクトの進捗ミーティングを行った。各プロジェクト担当者を中心に、スカイプを活用し情報共有を行い、連携してプロジェクトを進めることができた。

(6) ハウスへの定期的な物品運搬

企業又は個人の方からご寄付をいただいた品物(生活用品、食料品等)をボランティアの協力を得ながら定期活動やハウス訪問時に届けた。更に、1 か月に 1~2 回、車での運搬ボランティアの協力を得て、寄付された物品がすぐに利用者のもとへ届くようにハウスと事務局間において定期的に物品運搬を行っている。

各ハウスでは、毎月管理表をつけ、事務局でハウス内の在庫を把握、物品提供の参考にし、より必要なハウスと利用者へ物品が届けることができた。

2. 広報

(1)ファミリーハウス通信の発行

2016 年度も毎号ごとに編集会議を行い、年 4 回の発行を行った。質の高い紙面作りを目指し、昨年に引き続きプロボノの協力を得て工夫と改善を行った。誌面を通じ、会員に対して活動への親しみやすさを伝えるとともに、寄付・ボランティアへの活動参加に繋がるような制作に努めた。また、正会員、後援会員、協力企業、関係団体、医療看護福祉系大学、専門職団体、医療機関、保健所等へ配布し、4 回合計で 19,730 部発送した。(前年発送部数:17,758 部)

通信の編集・発送作業はボランティアの協力によって行われており、企業ボランティアからの協力も多数得て発送した。

(2)ファミリーハウス・フォーラム

2016 年 8 月 7 日、イイノホール&カンファレンスセンター<Room A>にて、ファミリーハウス・フォーラム 2016『英国小児ホスピスの現場から~英国運営者と利用経験者、2 つの立場から~』を開催し、医療・福祉専門職や学生を中心に 204 名が参加。ブリストルロイヤル子ども病院小児緩和ケアリエゾン看護師であるフランシス・エドワーズ氏及び、元シューティングスターチェイス理事のダン淳子氏から講演をいただいた。パネルディスカッションではファミリーハウスにおけるケアについて検討を深めることができた。ファミリーハウスが設立当初から大切にしてきた「患者家族を見守り、家族の自立を支える」ということの重要性が明確になり、それを特に医療関係者と共有できたことは、今後の医療関係者とハウスの連携強化に向けて貴重な一歩となった。(公益財団法人 JKA 平成 28 年度オートレース補助事業)

(3)ハウス見学受け入れ

各ハウスで、見学者(個人、学生、行政、企業)を受け入れた。

また、うさぎさんのおうちを最新のハウスの例として、多くの見学者に紹介し、病院から近いハウスを必要とする患児と家族の状況やハウスのニーズを伝えることができた。また、アフラックベアレンツハウス浅草橋・亀戸では、毎週金曜日に2回(冬季を除く)アフラックのアソシエイツ向けにアフラックが企画した見学会をファミリーハウスが担当。アフラック社員やアソシエイツ等を対象としたこの見学会は、2 ハウス合わせて 51 回実施し、延べ 969 名が参加した。

(4)ファミそづくり

料理研究家脇雅世ご夫妻のご協力により、『ファミそ~ファミリーハウスのための味噌~』作りが 3 年目を迎えた。オリジナルのデータ作成は、前年に引き続き、ホスピタリティデザインをてがけるプロボノの寺澤知也氏にご協力いただいた。支援企業やチャリティイベント等で、ファミリーハウスを知っていただく大きなツールのひとつとなっている。ファミその完成を楽しみしてくださっている方も多く、次年度も引き続き作成予定。

(5)マスコミからの取材

新聞、雑誌、企業等の取材申し入れがあった。

(6)ホームページ

2017年3月末現在アクセス数は339,430件、一年で21,108件アクセスされた。2016年度も、ホームページ更新ボランティアの協力により、月1回の定期的な更新を実施することができた。また、オンライン寄付も増加させるために、日本ユニシス株式会社の助成を得てホームページのリニューアル作業を進め、2017年4月1日に新サイトに移行した。今後もITボランティアの協力を得て、更新をしていく。

(7)講演等

- [1]公益財団法人東京しごとセンター主催「NPOで働く！～人を支えるしごと～」(2016年5月23日、千代田区)にて、NPOの基礎知識及びNPOで働くことについて発表を行なった。
- [2]パナソニック株式会社、特定非営利活動法人日本NPOセンター主催「組織基盤強化フォーラム」(2017年1月18日、パナソニックセンター東京)において、組織基盤強化における事例と取り組みを発表した。
- [3]その他、武田薬品工業株式会社、住友生命保険、ジブラルタ生命保険株式会社、ジヤトコ株式会社、MSD株式会社、日本メトロニック株式会社等の企業で社員向けに合計11回の講演を行なった。

(8)イベント

- [1]チャリティコンサートにてブース出展
2016年6月5日(日)、ゴスペル東京チャリティコンサートにて、ボランティアの協力を得てブース出展を行った。当日は多くの来場者がブースを訪れ、募金などのご支援をいただいた。またコンサート収益の一部が寄付となった。
- [2]ぶたネコチャリティコンサート
MS&ADインシュアランスグループの社会貢献活動団体(MS&ADゆにぞんスマイルクラブ)が主催するチャリティコンサートで、2000年から継続的にご支援をいただいている。年に数回、社屋ビルのロビーにて東京芸術大学学生、卒業生などによるミニコンサートが開催され、社員の方の参加費が寄付される。
- [3]Jazz Night@魚籃寺の開催
2016年9月16日(金)、NPOグローヴィル主催、コスモ石油株式会社の協賛で、魚籃寺の本堂にて通算11回目となるチャリティジャズコンサートが開催された。また同日、おさかなの家にてオープンハウスを行った。
- [4]東京マラソン2017参加
東京マラソン2017チャリティにおいて寄付先団体の1つとして選ばれ、2月23日(木)～25日(土)、東京ビッグサイトでのEXPO2017にブースを出展した。3日間で約160名のチャリティランナーにチャリティTシャツ等の記念品をお渡し、またチャリティ参加への感謝を伝えた。2017年2月26日(日)の大会当日は、靖国通りそばの事務局前にて約20名、毎年恒例の浅草橋駅付近には30名の応援隊が集結。東京駅前行幸通りフィニッシュ付近では、明治安田生命保険相互会社のご厚意により、会議室をお借りしてラウンジを設置。走り終えたランナーやご家族にあたたかい飲み物を用意し、ゆっくり過ごしていただくことができた。事前準備から大会当日まで、協力いただいたボランティアはのべ250名以上。「理想の家」実現に向け、さまざまな形で多くの方に支援いただいた。

3. 援助及び支援活動

(1)相談事業

- [1]受付・電話相談
電話の総数は、4,789件。電話相談問合せは、345件。
- [2]訪問による相談
利用者訪問件数は、144件。看護師、相談員などの専門職による訪問相談を行った。
- [3]病院との連携
利用者を受け入れる際に、必要に応じ病院との連携を行った。医師、病棟看護師、SWなどの医療従事者とともに利用者の安全な滞在を確保した。また、長期利用者の事例について、医療従事者との振り返りを行った。理想の家については、国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センターと話し合いを行った。

(2)援助支援活動

[1]利用者助成基金

利用料支払困難者に対し、公益財団法人森村豊明会より利用者助成積立基金を得て、減免を行った。

[2]公益財団法人 JKA

「研修費」の一部(医療・福祉系学生への滞在施設啓発事業)について、公益財団法人 JKA「オートレース公益資金」による補助金を受けて実施した。

[3]日本財団助成事業

「研修費」の一部(現在の小児医療における患者家族滞在施設に対するニーズの検討と理想のハウス実現に向けた基盤の構築事業)について、日本財団による助成を受けて実施した。全国の小児慢性疾病治療施設の医療従事者のハウスへのニーズに関する調査を研究者と共同で行い、結果を報告書にまとめた。

[4]ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成を得て助成プログラム(3ヵ年)の2年目事業を実施した。前年度に取り組んだマニュアル策定のためのノウハウ・知見に加え、ハウスの専門性を活かしたハウスクリーニングへの視点がもてた。3年目のガイドライン策定にむけた事業となった。

4. その他

(1)利用者データベース構築

2014年度から運用を始めたアクセスでの利用率計算について、IT ボランティアの協力を受けてメンテナンスをしながら運用することができた。

(2)第 17 回 JHHH ネットワーク会議の開催

2016年8月6日、国立がん研究センター中央病院国際研究交流会館にて、当団体の主催により、全国のハウス運営者63名が集まり開催。国立成育医療研究センター内に2016年4月に開設された「もみじの家」の滝本悦子看護師長が講演。また、午後は分科会を実施。「英国小児ホスピスに学ぶコミュニケーション」の分科会では、ファミリーハウス・フォーラム2016のゲスト講師でもあるフランシス・エドワーズ氏によるワークショップも開催された。